

PAWEES奈良2018会議にみるPWE(Paddy and Water Environment)誌の今後 Perspectives of the PWE Journal utilizing PAWEES NARA Conference 2018

増本隆夫*

MASUMOTO Takao*

1. はじめに

これまで、一流英文誌の発刊、インパクトファクター(IF)の取得、モンスーンアジアの水田農業研究の世界への情報発信を目指し、PWE(Paddy and Water Environment)は農業農村工学会が支え、Springer社が発刊する国際誌として一定の評価と位置付けを得てきた。最近では、IFとして1.379(2017年)を獲得した。ここでは、昨年11月のPAWEES-INWEPF合同の奈良2018会議における優秀論文のPWE誌での特集号化の試みやPWEの現状等を踏まえ、同誌の今後を展望してみたい。

2. PWE 掲載論文の現状

PWEは、2003年創刊から17巻を重ね、年間4号がコンスタントに出版されてきた。2007年からは、それまでの1巻あたり40~50本の論文印刷数を、80本前後に増大させてきた。そのため、2016~2018年に投稿された第1著者の所属国は46カ国に及び、まさに国際誌となってきた。一方で、欧州や北米からの論文数やダウンロード数も一定の割合を占めてきており、当初のモンスーンアジア水田農業の世界への情報発信の目標はある意味達成されてきている。

一方、2018年のPWEへの総投稿数は234本であり、多くの投稿数が維持されている中で、同年に査読結果がでた本数は201編、その中で、Acceptが54編(28%)、Rejectが144編(72%)と受理に至るには厳しい数字が維持されている。一方、2019年前半でみると、平均で初回投稿から、最初の判定に51日、Accept判定に333日、Reject判定に44日と、最初の査読結果が出る時間やrejectまでの時間は短縮されているが、受理までの時間は依然として時間がかかっている(Table 1)。

IFについては毎年7月頃に公表され、PWEは獲得年(2012年)0.986の値から、2013年の1.247を獲得して以降低下傾向になり、0.871(2015年)との結果に危機感を感じたが、2017年1.379や2018年1.264へと高まりをみせつつある(Fig.1)。IFの数値では農学系では概ね中間位の位置にある。投稿数は年間200編以上が維持され、さらに年間の論文ダウンロード数も最近では5万件を越え、2019年も同様に推移していることから、今後はいかに質の高い論文を掲載していくかが重要となる。

3. PAWEES 奈良 2018 会議でのフルペーパー募集とPWE 特別号の発刊

新しい編集体制(2016年7月)となつてからのPWEの問題点解決の一つに、IFの向上のため「特別号」(過去に8号発行)の機会提供を企画した。その結果、2018年16(2)に「Rice Ecosystem Services」特集号が実現したが、その効果が現れるの

Table 1 PWEへの投稿状況
Submission status of the papers in PWE

Submissions	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (-27 June)
Total Submitted	190	191	197	205	234	122
Total Decided	147	159	201	197	201	108
Accept	58	44	55	49	57	21
Reject	89	115	146	138	144	87
Acceptance Rate	39%	28%	28%	26%	28%	19%
Rejection Rate	61%	72%	72%	74%	72%	81%
Average Days to First Decision	87	125	136	98	75	51
Average Days to Final Disposition Accept	205	309	301	228	288	333
Average Days to Final Disposition Reject	86	119	148	110	68	44

* 秋田県立大学 Akita Prefectural University

キーワード:PWE、インパクトファクター(IF)、編集体制、特集号、奈良会議

は、2019 年以降の発表になる予定である。

引き続き、PAWEES 奈良 2018 会議(平成 30 年 11 月 20～22 日、於：奈良県春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA

Table 2 PAWEES 奈良 2018 会議における発表論文と選抜論文数
Numbers of submitted and selected papers in PAWEES NARA Conference 2018

Category	Submitted full-papers for NAR Conf.	Selected full-papers for PWE	Note: Vol. & No. of PWE
i) Water and Soil Management	46	19	17(2): 19 Articles
ii) Disaster Manag. & Adaptation	30	16	17(2): 9 Articles, 1 Short Comm.; 17(3): 7 Articles
iii) Region. Res. Manag. & Rural Planning	49	21	17(3): 15 Articles, 4 Tech. Rep., 2 Short Comm.
Total	125	56	

～)で募集したフルペーパーを活用して、優秀論文を選抜し、PWE の特集号として公表することを企画した。

まず、上記会議では、PAWEES 側のサブテーマを「土地、水、環境のスマートマネジメント」とし、参加者数 336 名を得て、テクニカルセッションとして 18 のテーマで 94 件の口頭発表、ポスターセッションで 133 件のポスター発表が行われた。口頭・ポスター発表に対しては、同時にフルペーパーを募集し、応募のあったセッション(Table2 の i)～iii))で受け付けたフルペーパーの中で優秀論文を選抜、結果として約半数の論文を PWE 誌に掲載することになった。その詳細は以下のようである。

- 1) フルペーパーの投稿分類: 投稿できる分野を、①水・土管理、②防災・施設管理、③地域資源管理及び農村計画、に分類し、特に PWE では投稿の少ないカテゴリー②を増設した。
- 2) 各種〆切は、Abstract:2018 年 3 月末、Abstract 採否通知: 同年 4 月末、Full Paper: 同年 8 月末、第 1 回査読結果を受けた再提出: 同年 10 月末、第 2 回査読による PWE 用優秀論文選抜: 2018 年 11 月末、PWE 原稿: 2019 年 1 月末
- 3) 査読体制: 統括 1 名、WG1～WG3 毎に、グループ長 1 名、グループ員 5 名の総勢 19 名体制
- 4) 条件: PWE 選抜のためには、会議での発表が条件だが、口頭・ポスター発表に区別は付けない

結果として、125 本の提出論文のうち、評価の高い順に 56 本を PWE 掲載論文として選抜し、17(2) [2019 年 4 月号]に 28 本、17(3)[同 7 月号]に 28 本の論文印刷を決定した(詳細は Table 2)。なお、会議費の中で選抜された論文全てに複数名のネイティブ英文チェックを行い、著者へのアドバイスを行った。今回の特集号では、フルペーパー投稿から約半年で Online 公表、1 年間前後で印刷という査読期間が短くなった上に、通常投稿の 20～30% 論文採択率に比して、44%の採択率に高まり、投稿者にとって好結果となった。

一方で、フルペーパーの応募数が想定の 2 倍となり、前記査読メンバーあたりの査読数が、アブストラクトの査読も含め、膨大な数になり彼らの負担が重かったこと、特集号の発行号が 2 本になったため、通常査読論文でonline公表論文の印刷が遅くなる等の課題も発生している。

4. おわりに

2018 年 16(2)の特集号と今回の特集号 2 巻、17(2)、17(3)の評価は、IF(2018 年)や IF(2019 年)に顕れてくると予測されるが、その結果がどのように推移するかを楽しみに、PWE の編集作業を進めていきたい。

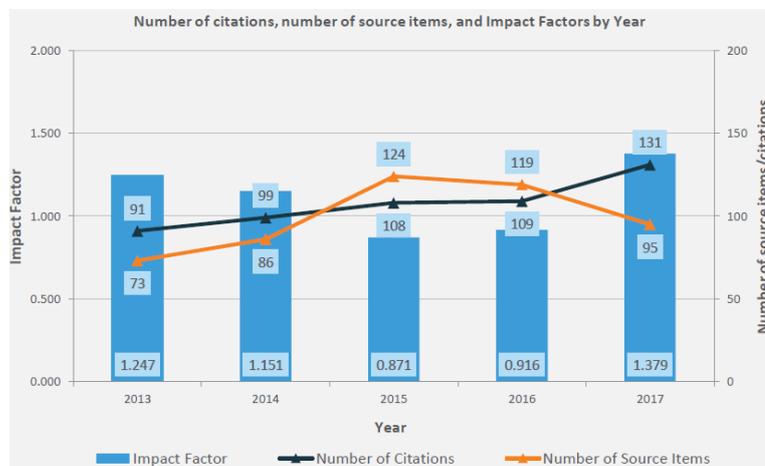


Fig.1 IF の推移
Change of IF of PWE